

日本有数の有機産地形成を目指して

R5策定 市総合計画



福井県 越前市

オーガニック都市宣言 R6. 5. 14



人が自然に働きかけ、その恵みを受ける農命の源泉である食につながるかけがえのない豈コウノトリをシンボルとし、生物多様性を確保するガス削減など地球環境に配慮した農業とし農業や環境調和型農業が盛んに行われてきました。しかしながら、地球温暖化は年々進行し、私

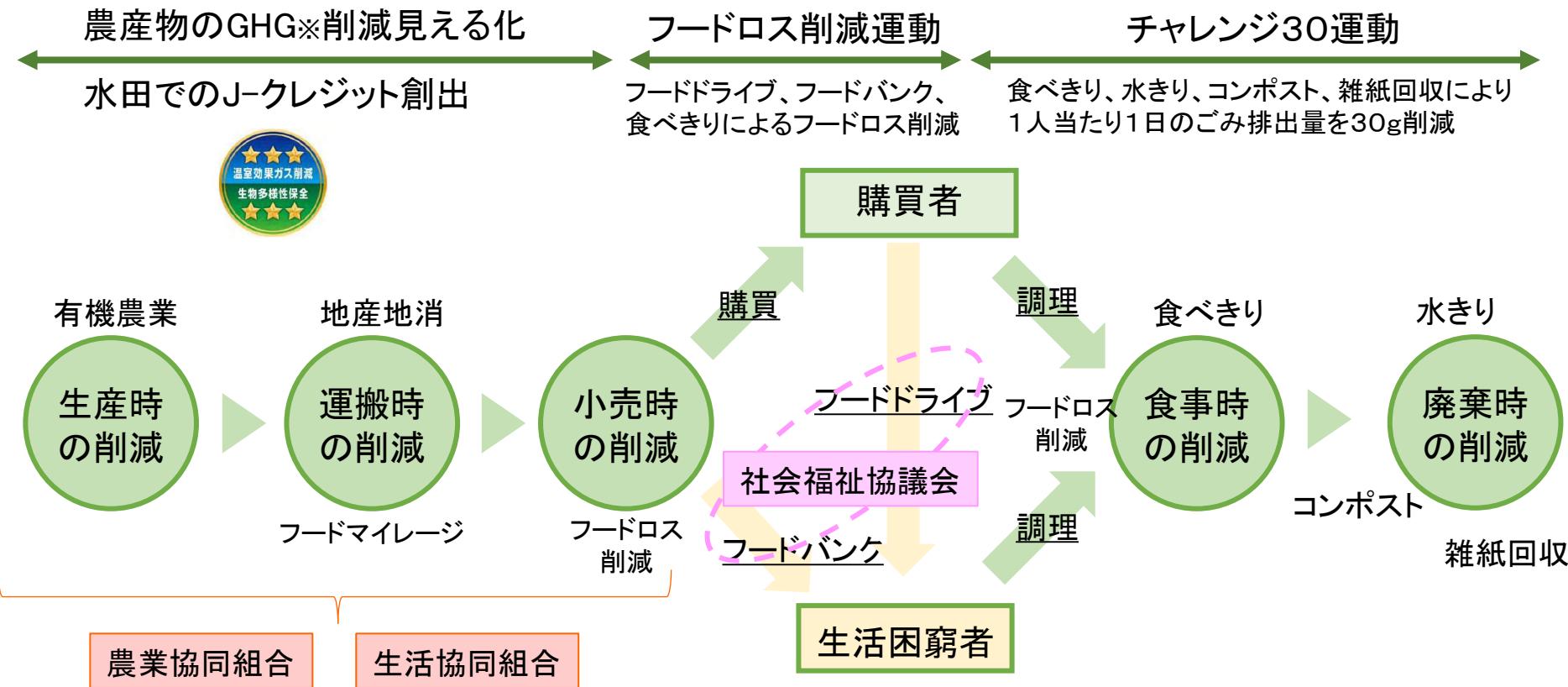
巻く状況は一層厳しくなっています。持続可能な食と農、環境を実現するため、生産から流通、消費まで、一貫して有機農業を進めることができます。

日常における食を改めて見つめ直し、豊かな自然を創造し続ける農業を次の世代に引き継ぐため、ここにオーガニック都市宣言を

**生産から消費まで
一貫して有機農業を進め
脱炭素社会の実現へ**

三協（農協、生協、社協）と市で取り組む 「地域一体型 食と農の温室効果ガス削減運動」

～食と農で取り組む脱炭素と地域福祉～



※GHG(greenhouse gas):

二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガス

市では3本柱で有機農業を推進(R5~)

1 規模感のある有機農業の推進

R5作成マニュアルの精度向上

ファーム広瀬の栽培技術を水平展開

2 有機農業へスマート技術の導入

追肥適期を特定する実証実験

負担大きい水管理のスマート化

3 有機農産物の更なる高付加価値化

富裕層、海外向けに訴求効果高い発信

市場調査、試験販売による販路開拓

市では3本柱で有機農業を推進(R5~)

1 規模感のある有機農業の推進

R5作成マニュアルの精度向上

ファーム広瀬の栽培技術を水平展開

2 有機農業へスマート技術の導入

追肥適期を特定する実証実験

負担大きい水管理のスマート化

3 有機農産物の更なる高付加価値化

富裕層、海外向けに訴求効果高い発信

市場調査、試験販売による販路開拓



農事組合法人 ファーム広瀬

約100haを有機(JAS)で栽培

(農) ファーム広瀬 法人概要

□名称： 農事組合法人 ファーム広瀬

□住所： 福井県 越前市 広瀬町129-6-1

□受託面積： 977,969m² 全て「有機農業」

圃場数： 458 (平均：2,135m²／圃場)

内訳) ①有機JAS認証： 747,828m²

②県特別栽培認証1： 230,141m²

□作付面積： 124.3ha (2毛作：26.5haを含む) 【2023年】

内訳) ①水稻： 61.2ha ②麦： 29.9ha

③大豆： 5.8ha ④そば： 27.0ha ⑤野菜： 0.4ha

全量受注生産 (マーケットイン)

□ 常時従事者 (年間150日以上) : 8人

・常時従事者： 組合員：3人 社員：5人

・地域協力者： 10名程度 (繁忙時期に従事)

製造品出荷額NO1→工業社会

世界レベルの工程管理・品質管理のノウハウ(考え方)

農業に活用できないかと考えていた



福井村田製作所

他にも信越化学工業 アイシンなど

生産 R5

ファーム広瀬の規模感ある有機農業を横展開

(大屋ファクト(株) 1. 5ha)



有機農業の
マニュアル化(演繹的手法)

生産者

管内農業者が大屋ファクト（株）実証圃を見学

R5 有機農業の新規取組者8名獲得



有機取組み初年度

共励会で慣行を含め
管内最優秀賞受賞



2023年度 最優秀賞・優秀賞受賞者

敬称略

賞	地区	部門名	受賞者名
最優秀賞	北日野	有機栽培コシヒカリ	大屋ファクト株式会社
優秀賞	白山	有機栽培コシヒカリ	稻葉 洋
	南条	日本晴	植村 克巳
	大虫	省農薬栽培あきさかり	大久保農園株式会社
	王子保	特別栽培コシヒカリ	石田 裕治

生産 R6

**R6はさらに実証圃を別に3ha追加し
ファーム広瀬方式の有機栽培を実施**

【新規取組者】南部農産株式会社(国兼町)



市では3本柱で有機農業を推進(R5~)

1 規模感のある有機農業の推進

R5作成マニュアルの精度向上

ファーム広瀬の栽培技術を水平展開

2 有機農業へスマート技術の導入

追肥適期を特定する実証実験

負担大きい水管理のスマート化

3 有機農産物の更なる高付加価値化

富裕層、海外向けに訴求効果高い発信

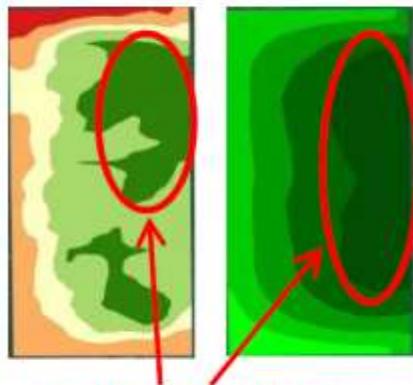
市場調査、試験販売による販路開拓

有機農業×スマート技術

栽培管理支援システムXarvio®(ザルビオ)



を活用しスマート農業を始めよう



緑が濃い所は地力が高く、
生育が良い

【地力マップ・生育マップ】



過去15年分の衛星データから圃場内の生育の傾向をAI解析し、生育状況や地力を可視化したマップです。

地力マップは、圃場内の地力ムラを緑色の濃淡で確認でき、生育マップは、圃場の生育ムラを色分けで表示されます。

これらを活用することで、肥料コストを削減しながら生育の均一化を図ることができます。反対に生育の悪い箇所への追肥散布で収量の増大が期待されます。

【作付けの団地化】

品種ごとに団地化して作付けすることで、1つの圃場として登録することができ、圃場ごとの生育の良し悪しを確認することができます。



今まで均一にやっていた追肥の量を圃場によっての調整ができる。スマホからも閲覧でき、散布前に確認しながら散布できる。



有機農業×スマート技術

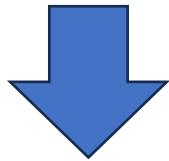
- ・生育ステージを画像判断し、
有機農業における追肥適期を特定する実証
- ・カメラを設置し、画像データの収集と分析
※NTTデータへ委託



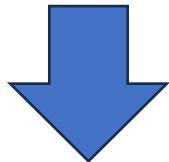
有機農業×スマート技術

ここ2年で蓄積したデータを活用

(株)NTTデータが制作する
越前市版有機米栽培の
アプリケーション



スマートフォンで撮影すると、
水稻の生育に応じ、追肥タイミングがわかる



R7は、有機農業者が試行的に本アプリを使用、検証する



JAによる乗用除草機の貸出開始

R5 1台 R6 2台体制

～水田除草機による除草～

- ・フロント作業機で、確実な除草作業
- ・株間＋条間の高い除草能力を発揮



【1回目】
田植え後7~10日後頃に実施

【2回目】
1回目の7日後頃に実施

プロモーションムービーはこちら



有機農業×スマート技術

- ・有機農業の水管理を**自動給水器**で行う実証
- ・大屋ファクト(株)の有機栽培圃場で



クボタ WATARAS

市では3本柱で有機農業を推進(R5~)

1 規模感のある有機農業の推進

R5作成マニュアルの精度向上

ファーム広瀬の栽培技術を水平展開

2 有機農業へスマート技術の導入

追肥適期を特定する実証実験

負担大きい水管理のスマート化

3 有機農産物の更なる高付加価値化

富裕層、海外向けに訴求効果高い発信

市場調査、試験販売による販路開拓

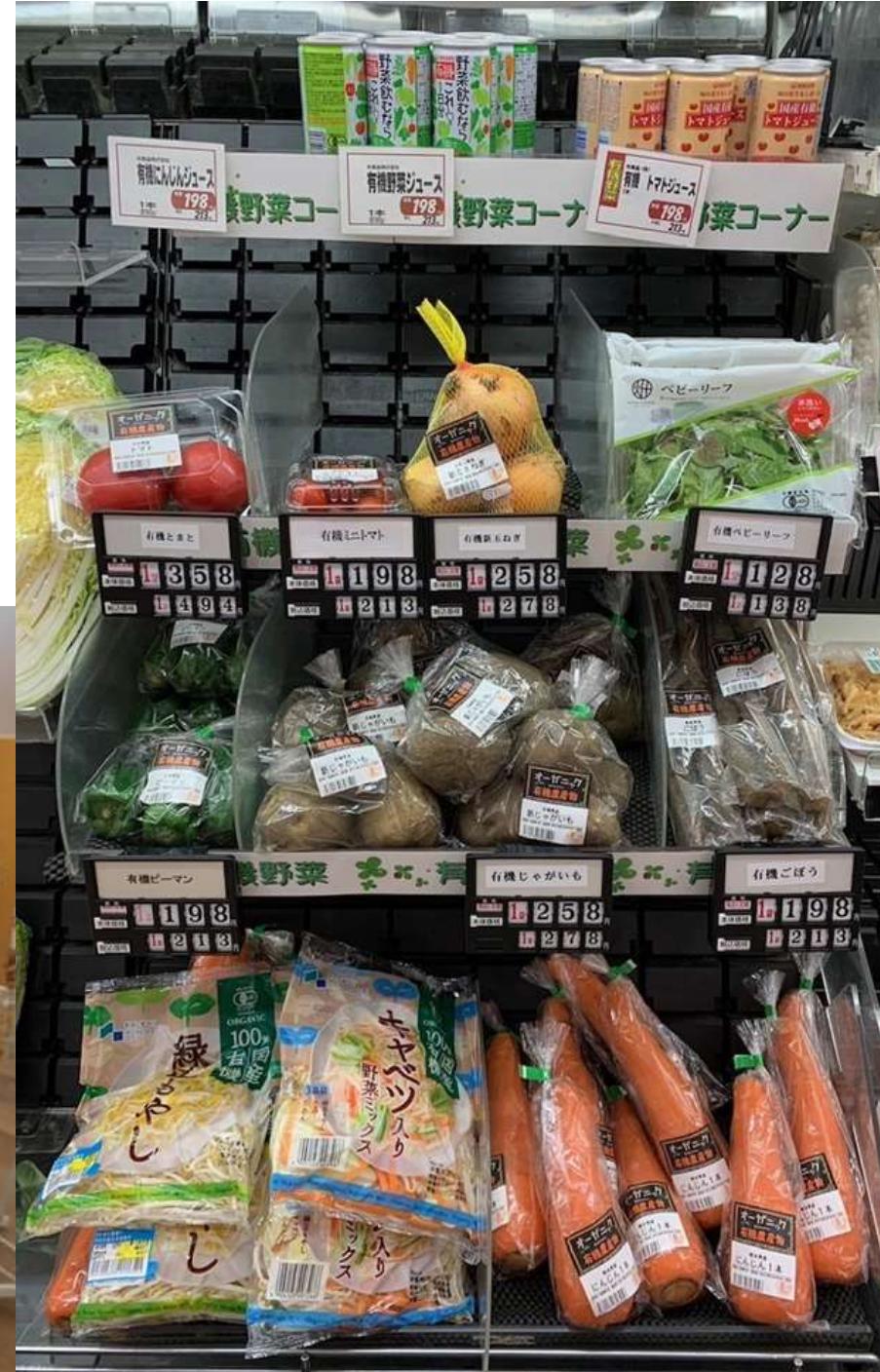
加工

有機農産物の加工による付加価値・ブランディング



市内流通

有機農産物や
その加工品を
地元生協、農協などで販売



販売・消費

・農水省の
「見える化ラベル」を推奨し、
環境にやさしい農産物を差別化

(JA越前たけふ 3月16日の新幹線開業に合わせ実施)

・学校給食に
「コウノトリ呼び戻す農法米」を導入
※市内全小中学校24校 (JA越前たけふよ



販路開拓

軽井沢町 発地市場 R5.12～

特販①吟醸酒

- ・オーガニックを求める層の多い市場をターゲティング
- ・市場調査や試験販売による販路開拓、販売促進

有機JAS米



有機JAS米
手焼きせんべい



東京八芳園 R6 5/29～6/9

販路開拓

オーガニック国際見本市 BIOFACHへ出展

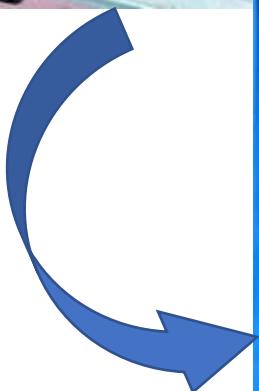
R6 10/25～10/27
東京ビッグサイト

農林水産省のブースに越前市のコーナーを設置



廃棄

堆肥化し、有機肥料へ
R7から試行的実施





オーガニック都市越前市

YouTube

コウノトリちゃんねる

越前市の環境にも体にも優しいオーガニックに関する取り組みを動画でお届けします。



サステイナブルツーリズム 国連BTM申請

- ・自然環境の豊かさ、
希少野生生物の生息と
ともにアピール
- ・富裕層、海外向けに
訴求効果の高い情報発信

Added Value to the Region's Agriculture (Branding, 8th Industry, Conversion to Organic)

A metal processing company in Echizen City converted around 5 hectares of idle farmland in Shirayama into a vineyard for natural wine, taking advantage of the area's daily temperature difference. They also plan to open a high end restaurant near the newly constructed JR Echizen-Takefu Station. They plan to sell all the wine made from the area through the restaurant. They are also planning on an "Auberge concept" near the vineyards to take advantage of the natural environment.



Echizen City Shirayama area

Shirayama is a rural area surrounded by the Nyu Mountains located about 1,000 meters above sea level. The area has an abundance of clean water due to the altitude and the temperature difference between the morning and evening. In 2008, alongside the neighboring Sakaguchi area, it was selected as one of "Japanese Top 100 Villages".



Most Innovative Initiative Developed for Tourism

The Story of the Stork

In 1970 local children took care of a stork with a broken beak that had come to Shirayama. Due to the declining population of the storks it was decided the stork will be transferred to a breeding center in Toyooka City where the staff promised the storks will one day make a return. Sadly it was never able to return to the area.



And then after 50 years after the stork, the first wild stork had returned to nest on an artificial nesting tower, thanks to initiatives taken by local government for the birds to return.

白山とコウノトリの物語
The Story of Shirayama and the Stork



成果

規模感ある有機農業の推進

【R6】 310 ha（目標値）

有機栽培面積の推移

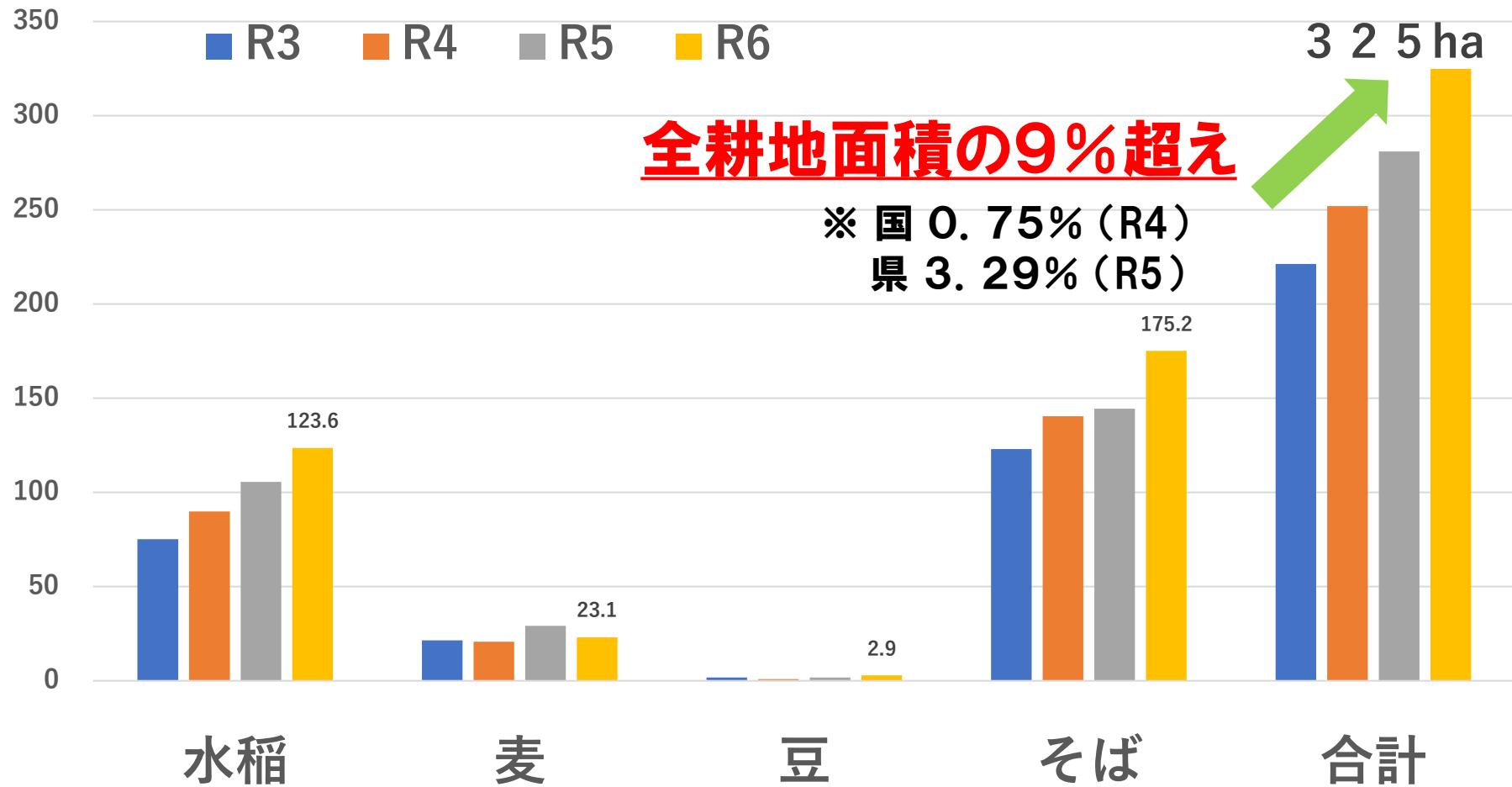
【R3】 209 ha

【R4】 241 ha

【R5】 276 ha

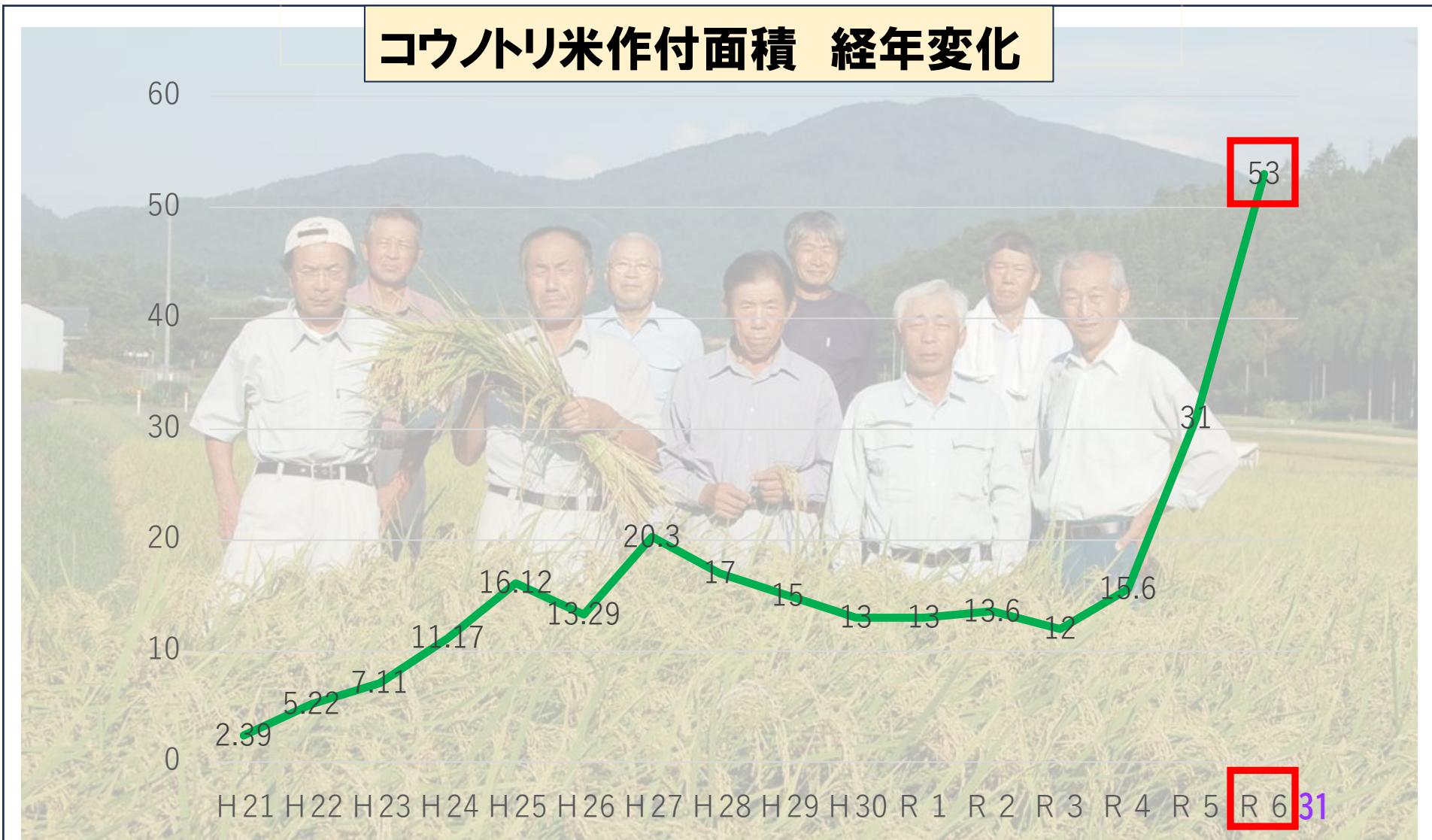
【R6】 325 ha (約50haの増)

有機栽培面積の推移と内訳



増加要因①

コウノトリ米の作付が増加 会員も30名に



1. 有機栽培コシヒカリ (認証①: 無化学肥料・農薬不使用)



目標面積 60ha

単位: 1俵あたり

品種	等級	1等	2等
コウノトリ呼び戻す農法米		内金 24,000円	内金 20,000円

【取組要件】

- 栽培期間中化学肥料・農薬不使用。
※色選処理必須。
※有機JAS認証までは求めません。
- コウノトリ部会への加入が必要。



JA越前たけふの機構改革 2012 経済事業を（株）コープ武生へ完全譲渡 コメの全量直売開始

【経済事業の子会社への譲渡】

〈あらまし〉

組合員から安心と信頼が得られる組織を構築するため、2011年（平成23年）10月の臨時総会決議に基づき、2013年（平成25年）1月より経済事業（資材課・燃料課・機械課）を子会社（株）コープ武生に譲渡しました。

また、2012年（平成24年）に地域農協として全国で初めてコメの全量直売に踏み切ると、高い品質管理が評価され、精米業者や外食産業から集荷量を超える注文が舞い込むようになりました。また、肥料を業者と協同開発して配送を効率化し、従来より2～3割安く仕入れています。

米販売の戦略

⇒JA越前たけふと連携した商品開発によるブランド展開

「消費者から信頼され、選んでいただける米づくり」を基本に、消費者のライフスタイルに応じた
価格とおいしさを提案

JA越前たけふ資料より

増加要因②

有機栽培のそばを扱った

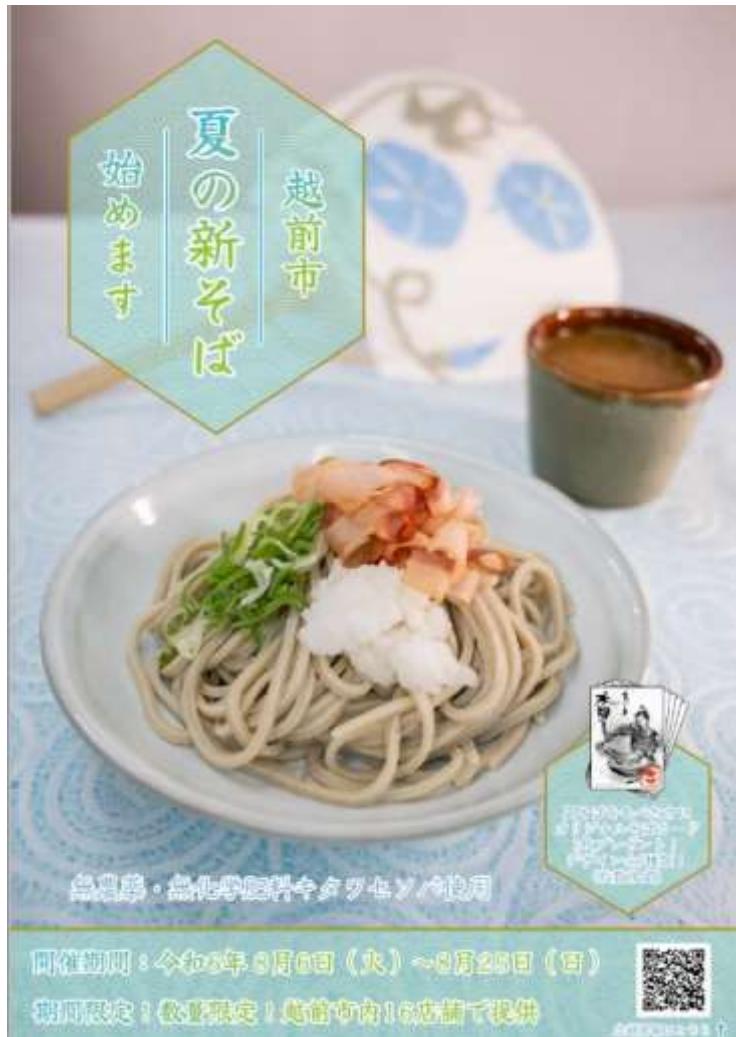


夏そばキャンペーン により

そばの有機栽培面積が拡大

152ha → 175ha

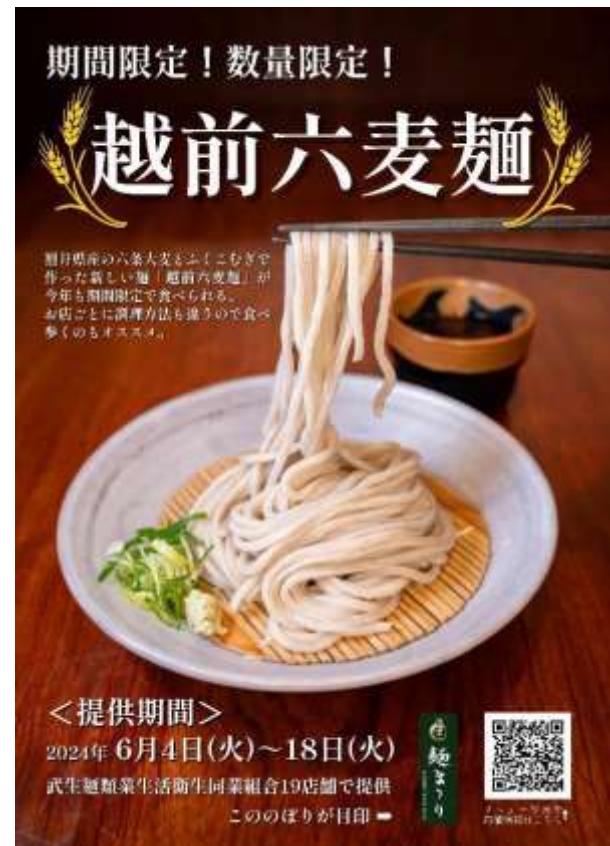
結果



- ・ 提供期間: 8月6日(火)~25日(日) 約3週間
- ・ 提供店舗: 16店舗
 麺類組合加盟店 10店舗
 麺類組合非加盟店 6店舗
- ・ 事業予算: 684,000円 (県10/10)
- ・ JA管内**有機栽培**キタワセソバ玄ソバ使用
- ・ 結果 **12,000食完売**
 約1,000万円の売上

▲夏の新そばPRポスター

越前六麦麵



夏の新そば



めん祭り



年間通じ「麺」で6次化、地消地産

現在計画中

食や環境の意識が高い県外都市の 学校給食にコウノトリ米を販売

→ 水稻を生産できない自治体とつながり、
消費の拡大をめざす!!

軽井沢町で「シェフ給食」 地元店シェフのフランス料理を小中学生が味わう

2024/12/25(水) 9:00 配信



みんなの経済新聞
LOCAL NEWS NETWORK



6年竹組の男子児童は「フランス料理を初めて食べるの、とても楽しみにしていた。味も違うし、使っている食材も違うので、新しい味で、とてもおいしかった」とうれしそうに話していた。

軽井沢町立4小中学校で12月18日、軽井沢町内のレストランシェフによる学校給食へのレシピ提供と調理をサポートした「シェフ給食」が行われた。「シェフ給食」は昨年度始まり、本年度3回目となる。今回の担当シェフは「TOEDA」（軽井沢町長倉）オーナーシェフの戸枝忠孝さん。戸枝さんは、「ボキューズ・ドール国際料理コンクール2021」に日本代表として出場したことがある。（軽井沢経済新聞）

【写真】フランス家庭料理の「シェフ給食」=軽井沢町

想定：軽井沢町

荒川区など

3 有機農産物の販路開拓と消費拡大

食や環境の意識が高い県外都市の 学校給食にコウノトリ米を販売

実施にあたっては、「コウノトリ物語」として
都市交流を前提に当地ではJAと共に新聞社、
都市部でもメディアや環境問題に取り組む大手企業
の協賛を得るなどして推進する計画

子どもたちへのメッセージ



つながっているんだよ
生き物と食べ物
そしてわたしたちの命

越前市からの贈り物



福井県 越前市から政府に提案しています

学校給食を通した地方創生・環境問題への対応

国の給食無償化に伴い
削減される自治体財源を
有効活用

地場産農林水産物を活用した場合の差額補填（国1／2）

給食における地域性の発揮

地元の伝統的農林水産業（業者）の理解 = 食育
併せて地域農林水産物の価格保証と販路の確保

有機農産物を活用した場合の差額補填（国1／2）

有機農業を振興（安定した需要先を確保）

安全・安心の給食の実現
温暖化対策を推進

地方の食文化
地方創生

地場産食材加算

有機食材加算

給食無償化

全国一律（学校給食法の理念）

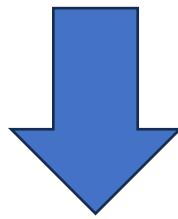
必要な栄養の確保

保護者負担軽減 = 生活支援、子育て支援

有機農業の推進
環境問題への対応

ユニバーサルサービス

・農水省の
「見える化ラベル」を推奨し、
環境にやさしい有機農産物を差別化



・学校給食に有機栽培米
「コウノトリ呼び戻す農法米」を導入
※市内全小中学校24校（5日間）
一般米との差額はJA及び農政部門で支給



現状

農政部門において地場産農産物や、有機農産物の推進を、
現場における反当たりの補助金で推進する在り方

転換

将来

公的な消費で牽引し、農家所得の向上と安定をもたらす在り方

ご清聴ありがとうございました

最後にひとこと
行政に関わる皆様へ



今はVUCAの時代。
未来は現在の延長にはない。

Volatility

Uncertainty

Complexity

Ambiguity

変動性
不確実性
複雑性
曖昧性

公務員：一定の技量を身に付ければ定年までごまかせる時代ではない

行政もアップデートしなければいけない

時代

20年前

未来が現在の延長
にあった時代

評価される公務員

評価対象

大量定型業務を迅速に処理できる人

言われたことを言われたとおりにする人

残業する人

前例踏襲・先送り

(つまり現状維持の人)

経過

内部評価
管理組織

過渡期ではなく、とっくに切り替わってますよ

今

未来どころか現在すら
不確定な時代

非定型業務の組立ができる人

言われた成果を少ない労力と時間でだす人
業務を改善できる人 **生産性重視**

定時で帰る人

(要は自分をバージョンアップできる人)

チャレンジする公務員

新しい価値を創造できる公務員

結果

外部評価
自走組織

本気ですか
あきらめてませんか
あなたが本気でないと市民は伴走できない

有機農業
脱炭素社会

少子・高齢化
財政健全化・・・